令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　西淀川区

学 校 名　柏里小学校

学校長名　加藤　稔久

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和７年４月17日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・柏里小学校では、第６学年　４７名

学校名　柏里小学校

令和７年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科における本校の平均正答率は56％であり、大阪市の平均正答率65％を9％下回る結果であった。算数科においては、本校の平均正答率は46％で、大阪市の平均正答率58%を12%下回る結果であった。理科においては、本校の平均正答率は44％で、大阪市の平均正答率55％を11％下回る結果であった。

今年度はどの教科も大阪市の平均を大きく下回っている。学習指導要領の内容・領域・区分別や、評価の観点ごとに見ても、すべての区分で大阪府を下回っている。無解答率が大阪市平均と比べて高く、国語・算数においては大阪市の約３倍、理科においても約２倍となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］これまで読書環境の充実、読書活動の推進、「第一教育ブロックの学力向上推進事業」の一環として実施している漢字検定の受検など、国語科の基礎となる基本の習得に継続的に取り組んできた。その結果、選択式の問題においては、正答率が大阪府平均とくらべてもあまり差がない問題が半数を占める。しかし、記述式の問題においては、正答率が大阪府平均を17.4％下回っている。「国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」の質問紙調査では、3分の1以上が「解答しなかった、書くことを途中であきらめた。」と回答している。

［算数］算数科においては、すべての区分で正答率が大阪府平均を下回っているものの、計算問題においては、大阪府平均を上回っている。昨年度、「基礎・基本の習得」に重点をおいて学校で取り組んだ研究の成果であると考えられる。学習指導要領の領域別で見ると、「変化と関係」区分で、伴って変わる２つの数量の関係に着目する問題や、「データの活用」区分で、グラフや表から事柄を読み取ることに課題があることがわかる。国語と同様、記述式の問題の正答率が低い。

［理科］理科においては、「理科の学習は好きですか。」に肯定的な回答をした児童が国語・算数よりも多かった。学習指導要領の区分・領域別に見てみると、「エネルギーを柱とする領域」の問題における正答率が大阪府平均より10ポイント以上低い。問題別に見てみると、顕微鏡の使い方や水の状態変化についての問題は、大阪府平均に近い正答率であった。国語・算数と同じく、記述式の問題の正答率が低い。

質問調査より

自己有用感に関する質問に関して、高い割合を示している。「将来の夢や目標を持っていますか。」「人が困っているときは、進んで助けていますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の質問においては、最も肯定的な回答の割合が、大阪府平均や全国平均を上回っている。自己肯定感も高く、他者を大切にしようという姿勢の表れであると考えられる。

「朝食を毎日食べていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」に肯定的な回答をする割合が今年度も高く、家庭での基本的生活習慣が身についている結果である。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」「学校に行くのは楽しいと思いますか。」「友達関係に満足していますか。」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の質問においても、最も肯定的な回答の割合が、大阪府平均や全国平均を上回っている。学校生活が良好であることの表れであると考えられる。

「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。」「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」の問いに「全くしない。」と回答した割合が全国平均よりも高い。

今後の取組(アクションプラン)

昼のチャレンジタイムや放課後学習に引き続き取り組み、基礎・基本の定着を図っていく。習熟度別少人数学習を中学年で継続、ブロック化による学校支援事業、西淀川区の学力推進事業・校長経営戦略支援予算による漢字検定(4・6年生)、英検ジュニア検定(3・5年生)の継続、及び朝日デジタル新聞を活用した取り組み（5年生）により、読解力と学びに向かう力を育成し、子どもたちの主体的な学びへとつなげていく。日本語の習得に課題があるなど、個に応じた指導を「学力向上支援チーム事業」の一環として実施している「学びサポーター」の活用により引き続き実施していく。また、「スクールアドバイザー」の学校訪問により、研修や授業改善を図る。その中で、ICT機器の効率的な活用について、積極的に取り組んでいく。特に、生成AIを活用した授業の展開を図る。